
キミノテ

T.F

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミノテ

【Nコード】

N3773T

【作者名】

T・F

【あらすじ】

彼女にフられて始まったサトシの夏休み。こうなったら彼女なんかいなくても最高に青春をエンジョイしてやろうとしていた。

しかし、ある少女との出会いで、エンジョイどころではなくなってしまう。どうなるサトシ！？どうするサトシ！？

第一話 子猫ちゃん

「…というわけで、別れよう。」

…あん？

「へ？」

「このままじゃ、お互いの為にならないし、よくないと思うの。」

「いやだって、そんな急に…」

「前から言おうとはしてたの…でも、言えなくって…その…ごめん…！」

彼女はそのまま一目散に走って行ってしまった。楽しみにしていたデートはこんな終わりを迎えてしまった…が、どうにも腑に落ちない。

「あ、ちょ…え〜。」

大学2年生の夏休み。最悪の形でスタートを切った。

第一話 子猫ちゃん

そんなこんなで友人宅。18時をすぎたが外はまだ明るい…が、俺は暗い。

「…はい？」

「…ええ。」

「いや、だって、昨日まであんなに仲良かったじゃないか。それがなんで急に…」

「もうワケわかないでゲス。」

俺の名前は藤枝哲。フジエタサトシ 大学生だ。

他にも紹介すべきことはたくさんあるのだろうが…とりあえず今日、生まれて初めて付き合った彼女にフられた。

「なんて言われたんだい？」

「あー…なんか色々ごちゃごちゃ言ってたけど…ああ。なんかこれ以上つき合ってもお互いの為にならないとか言われたわ。」

「…ほう？」

傷心中の俺の話を聞いてくれてるこいつは宮部賢。ミヤベマサル

同じ大学に通っていて、学科やらサークルやらが一緒に、いつも一緒にいる。勉強もスポーツも万能で、性格も穏やか。誰からも好かれてる。噂ではどこかのお坊ちゃんらしいが、本人は自分のことを話したがない。その代わり、ただただ人の話を聞く。

なんでこんなにいいヤツが俺なんかとツルんでいるかは謎だが…一緒にいて楽しいヤツだし、それは向こうも同じらしい。うれしい限りだ。

「お互いの為ってなあ…別に一緒にいらればそれでいいような気がするんだけどな。」

「うーん…何なんだろうね？お互いの為かあ…」

「あゝも…わっけわかんねえよお。」

「確か、ハナちゃんから付き合いたいって言ってきたんだよね。」

「ああ…あの時はヤバかったなあ。なんか、こう…なんつーの？クラクラッと来たっていうかさ。」

ハナ…今日俺の元カノになった吉田花は、授業と授業の合間には本ヨシダハナを読んでいる物静かな女の子だ。

だが、ルックスの良さと周囲への優しさが男女共に好かれ、我が学科のアイドル的存在でもある。

入学して間もない頃、学校からの帰り道でナンパされているハナを見つけた。ハナは優しいが、その反面断り方を知らない。オドオドするばかりで、何を言うわけでもない。だが、明らかに困っていることだけは俺でも分かった。

だが、そんなハナに向かって言った男の一言が…

「恥ずかしがらないで 僕の可愛い子猫ちゃん♪」

…気がついたらそいつに蹴りをかましていた。当然助けるつもりで蹴ったんじゃない。ただこの男に無性に腹が立って蹴った。ただそ

れだけだ。(つてか、今時子猫ちゃんて…なあ?)

ハナが同じ学科だということを知ったのはだいぶ後のことだった。偶然とはいえ、あの時助けた女の子がまさか学科のアイドルだったとは…

ハナは、自分からはなかなか話しかけられなかったらしいが、勇気を出して俺と仲良くしようとしてくれたらしい。そしてだんだんと接していくうちに、俺たちはつき合うことになったんだ。

「まあ、ハナちゃん可愛いからね。」

「てめー、人の彼女を変な目で…」

「もう”元”彼女だろ?」

「…うつせーよ。」

一気に現実に戻された。そう、全ては過去の産物になってしまったのだ。悔やんでも悔やみきれない…つてか、フられた理由すら分からない。

もうね、考えるのもめんどくさい。

「ごめんごめん。まあ、こういう時はお酒でも飲んで忘れようよ。」

「…ああ。」

俺はあまり強いほうではないが、マサルは酒豪だ。しかし酔ったら人が変わる。普段は穏やかだが、一旦酔ったら大体飲まされるから

ちょっと怖い。次の日が地獄だ。

が、今日は特別。酔っ払って大泣きたい気分だ。おまけに学校もない。夏休み最高。

「じゃ、行こうか。」

「うい。うい。」

いつもの店に向かおうと、俺たちは外に出た。外は薄暗くなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3773t/>

キミノテ

2011年10月9日02時44分発行